# 実習

#### プログラムファイルを開く

Jupyter Notebookを起動した後に、配布したフォルダ内のsource.ipynbというファイルを開く

#### このような画面が出ればOK

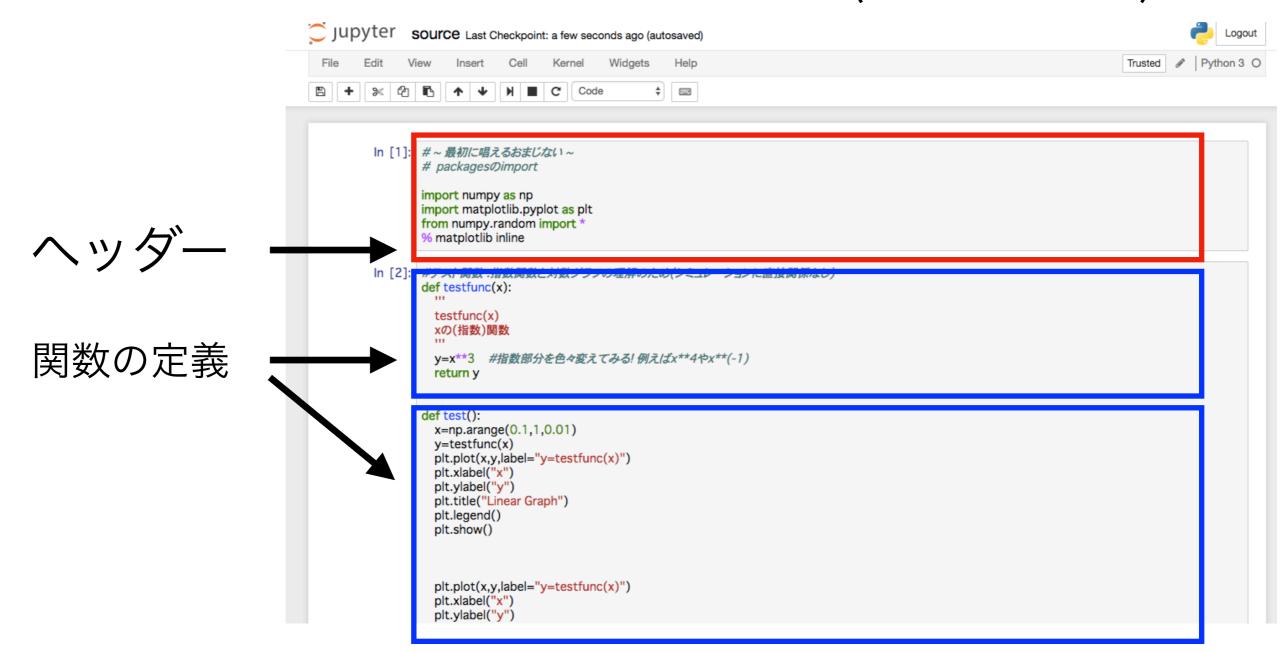
```
Jupyter source Last Checkpoint: a few seconds ago (autosaved)
                                                                                                                                        Logout
                                                                                                                         Trusted / Python 3 O
                                Kernel
                                                *
     In [1]: #~最初に唱えるおまじない~
            # packages@import
            import numpy as np
            import matplotlib.pyplot as plt
            from numpy.random import *
            % matplotlib inline
     In [2]: #テスト関数:指数関数と対数グラフの理解のため(シミュレーションに直接関係なし)
            def testfunc(x):
              testfunc(x)
              xの(指数)関数
              y=x**3 #指数部分を色々変えてみる! 例えばx**4やx**(-1)
              return y
            def test():
              x=np.arange(0.1,1,0.01)
              y=testfunc(x)
              plt.plot(x,y,label="y=testfunc(x)")
              plt.xlabel("x")
              plt.ylabel("y")
              plt.title("Linear Graph")
              plt.legend()
              plt.show()
              plt.plot(x,y,label="y=testfunc(x)")
              plt.xlabel("x")
              plt.ylabel("y")
```

#### プログラムの大枠

ヘッダー + 関数の定義 + Main関数 でできている

ヘッダー:おまじない(わかっていなくて良い)

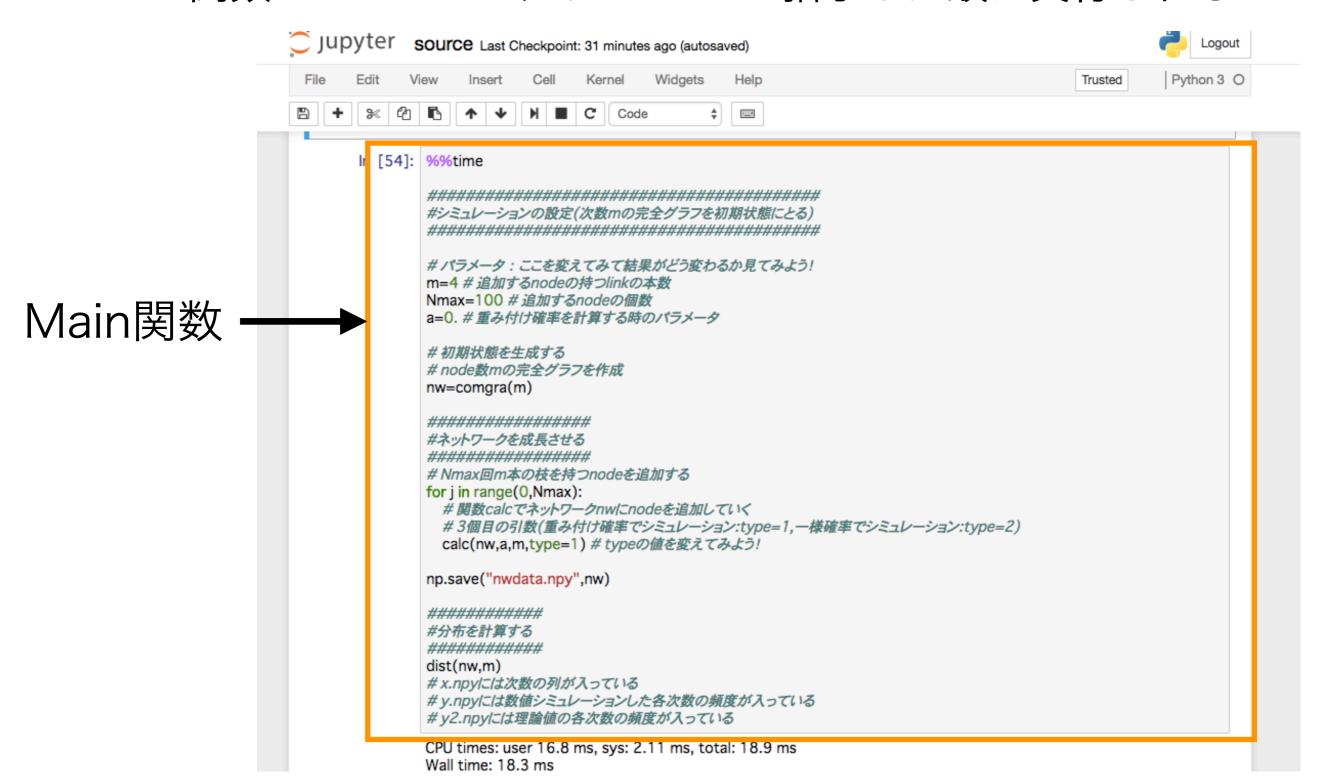
関数の定義: Main関数の中で使う関数を定義(defから始まる)



#### プログラムの大枠

ヘッダー + 関数の定義 + Main関数 でできている

Main関数: Mainのプログラム. ここで指示した順に実行される.



#### プログラムの大枠

ヘッダー + 関数の定義 + Main関数 でできている

Main関数の中で、定義した関数を使ってやりたいことを順番 に命令する

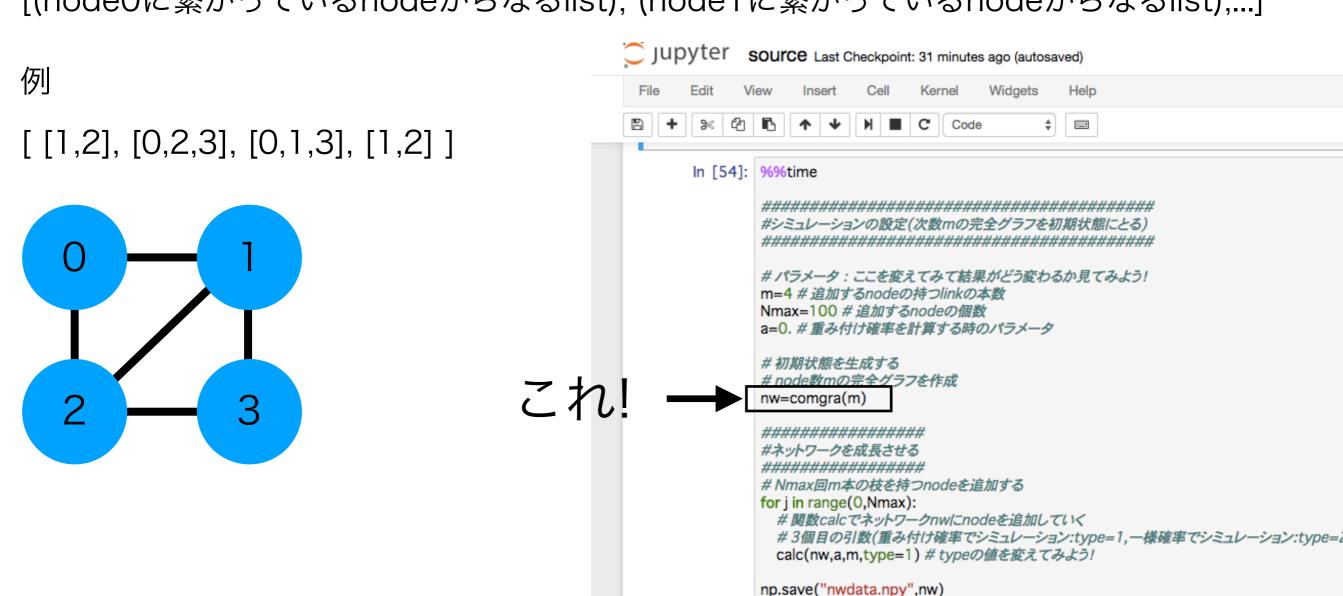
ヘッダー 関数の定義 関数の定義 関数の定義 Main関数

#### Mainプログラムの内容

- ▷Main関数の中身がわかれば大体何をしているかわかる
- ▷大事な変数は「nw」:ネットワークを表現するデータ配列

#### 隣接リスト:

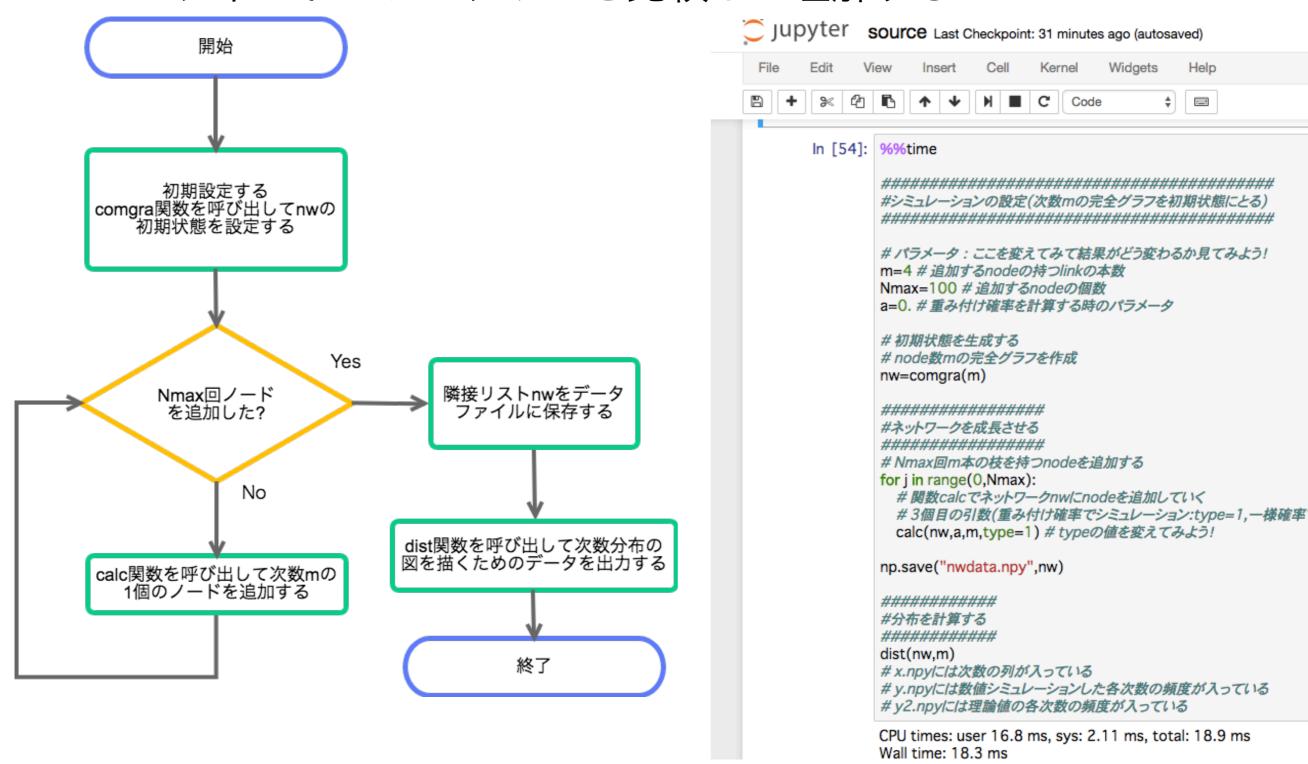
[(node0に繋がっているnodeからなるlist), (node1に繋がっているnodeからなるlist),...]



#### Mainプログラムのアルゴリズム

▷Main関数の中身がわかれば大体何をしているかわかる

フローチャートとプログラムを比較して理解する



#### 定義した関数の内容

def 関数名(引数)

. . .

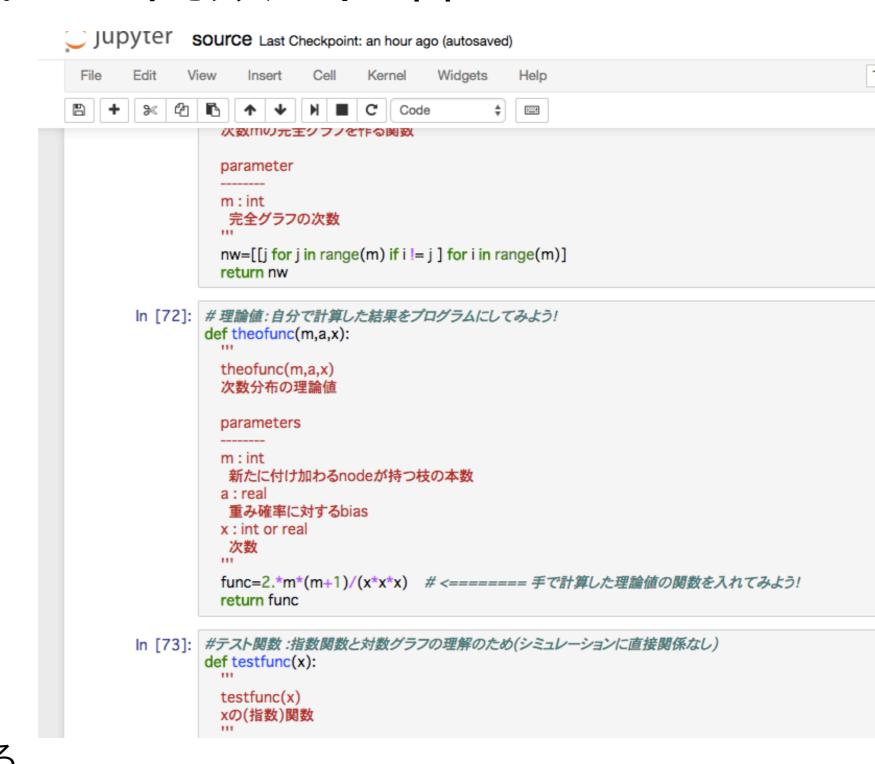
return 返り値

引数: y=f(x)のx

返り値: y=f(x)のy

と思っておけば良い

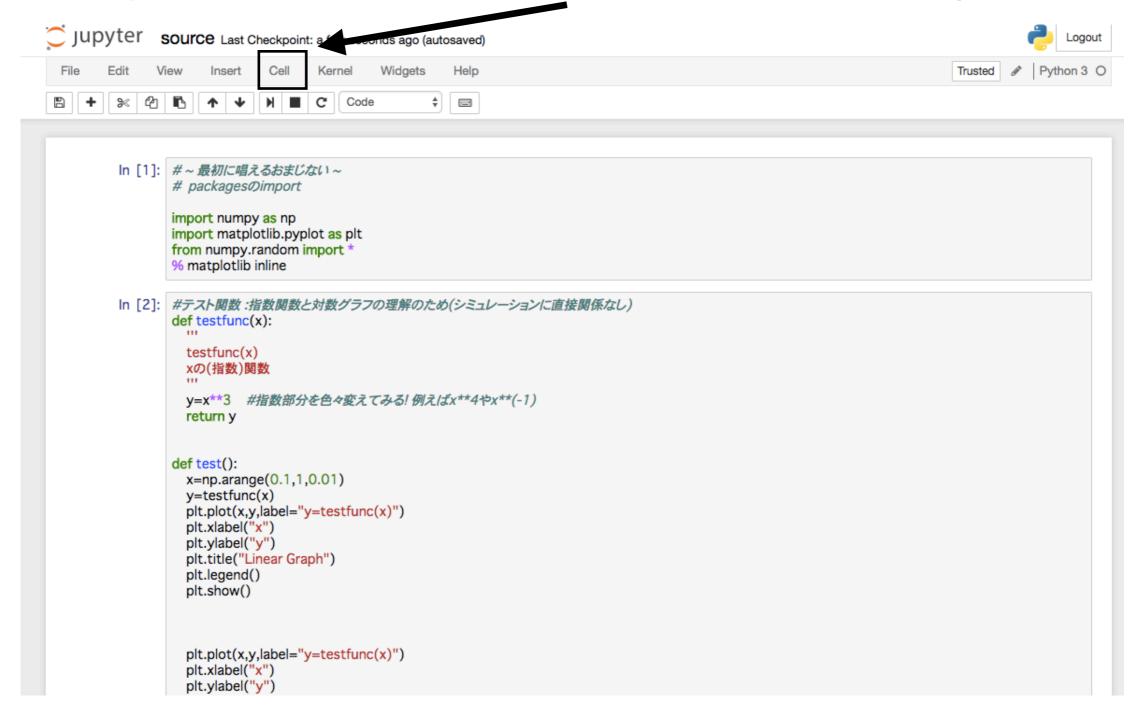
細かい関数の内容は プログラムの中の コメントを見て理解する



#### プログラムの実行(べき分布の確認)

1.プログラム内の以下の「#テスト関数~」の部分を探す。

2. この部分を選択し、上タブのCell→Run Cellsを叩く



### プログラムの実行(ヘッダー)

- 1.プログラム内の以下の「#~最初に唱えるおまじない~」の部分を探す。
- 2. この部分を選択し、上タブのCell→Run Cellsを叩く

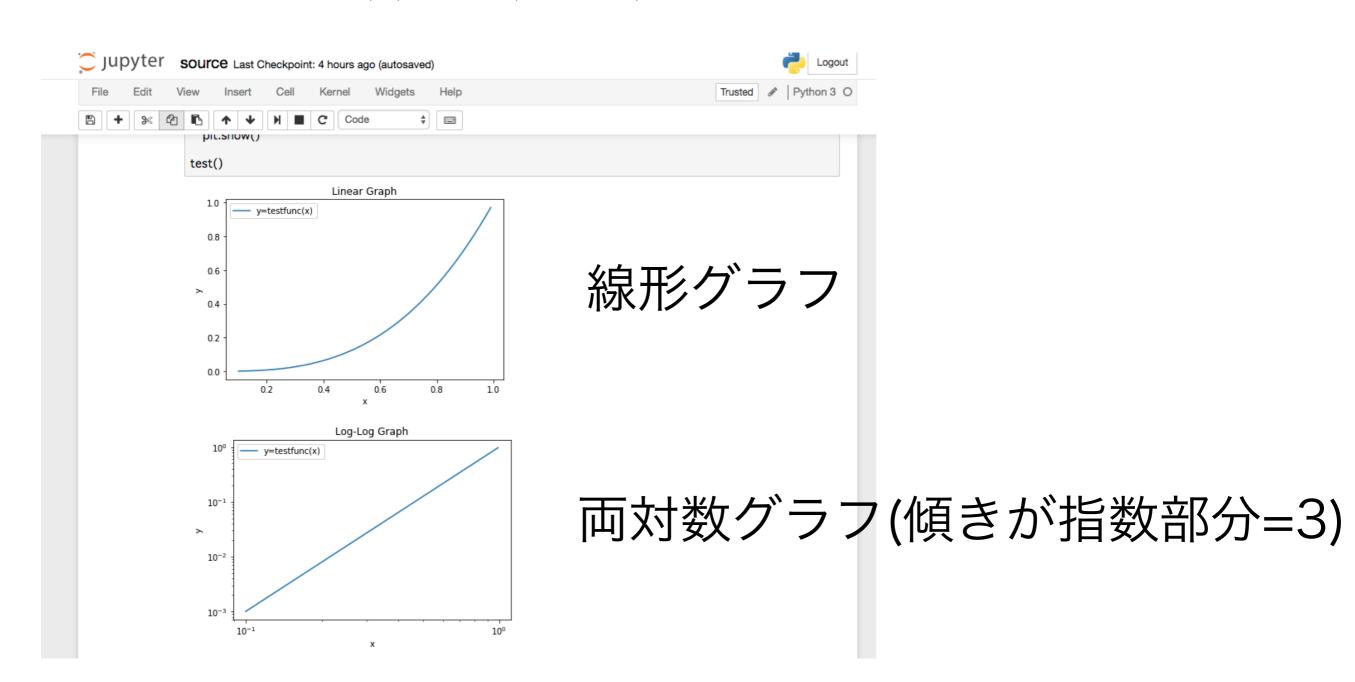
この作業は1回だけ 今後はやらなくて良い



### プログラムの実行(べき分布の確認)

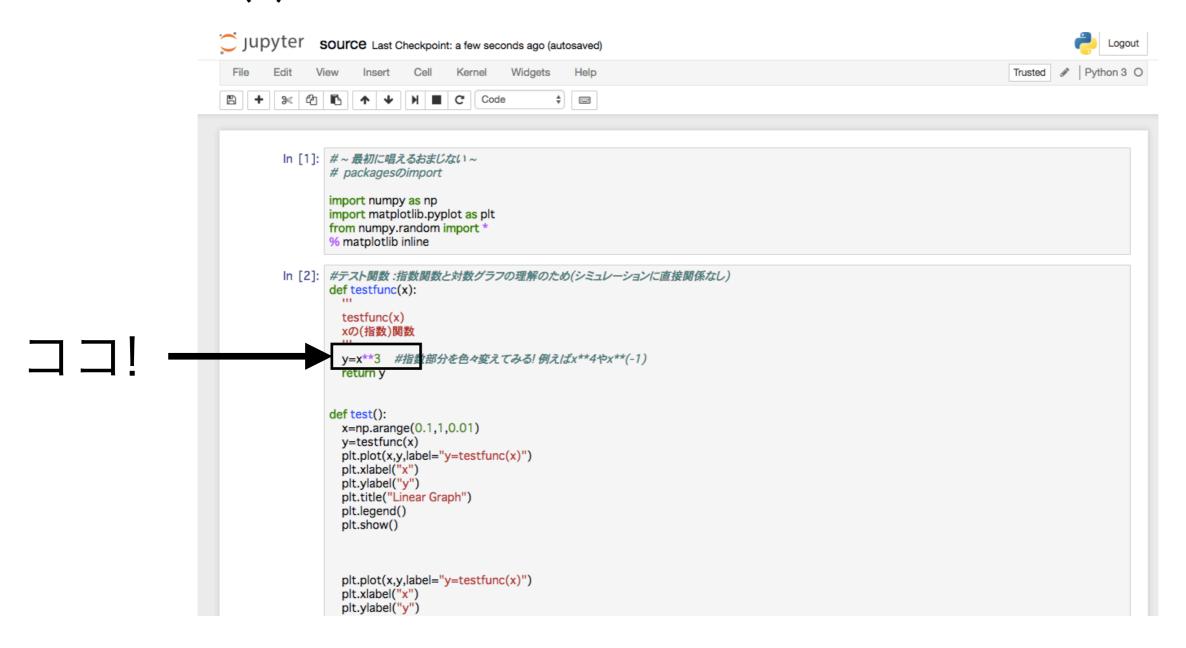
3. 実行すると下に図が出力される。(線形グラフと両対数グラフ)

デフォルトは  $P(k) = k^3(y = x^3)$ 



#### プログラムを変更してみる

testfunc(x)の中身を変えてみる※例えばx\*\*4はxの4乗

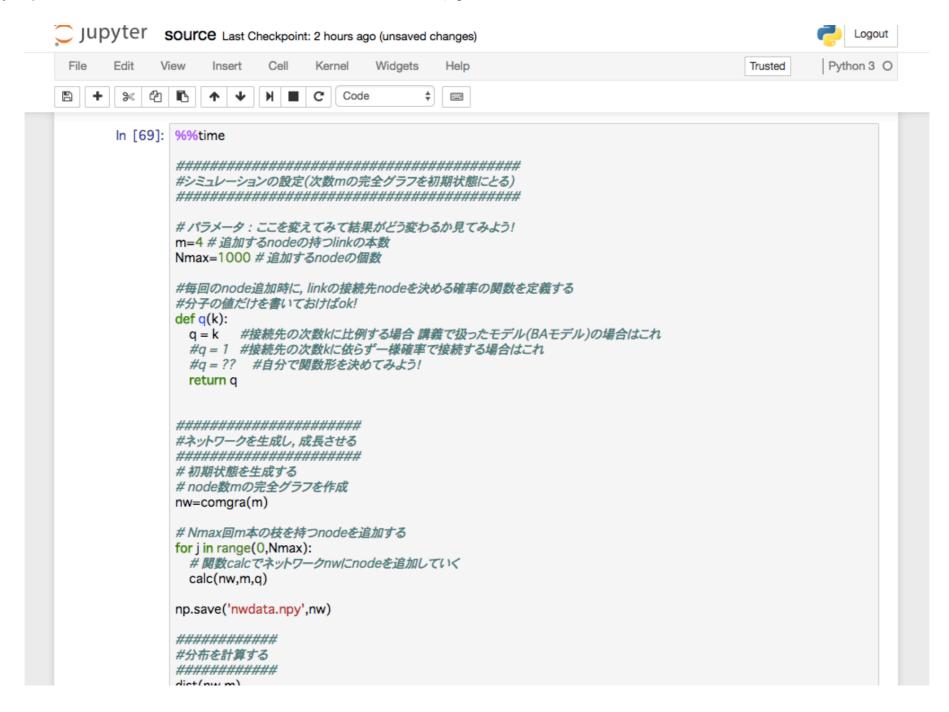


できたら先程と同様にCell→Run Cells

### プログラムの実行(シミュレーション)

1. プログラムの中で以下の「%%time~」の部分を探す

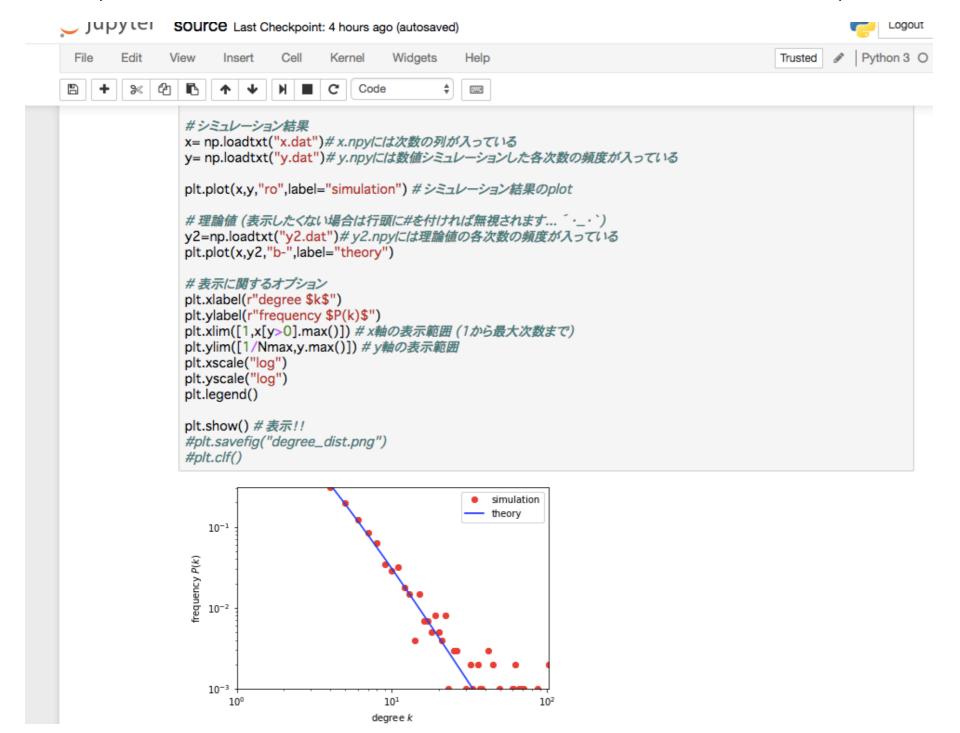
#### 2. 今度はCell→Run All で実行する



#### プログラムの実行(シミュレーション)

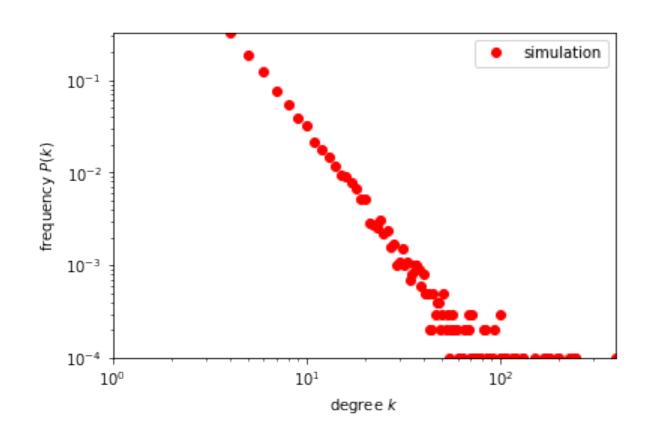
3. 下に次数分布の図が出力される

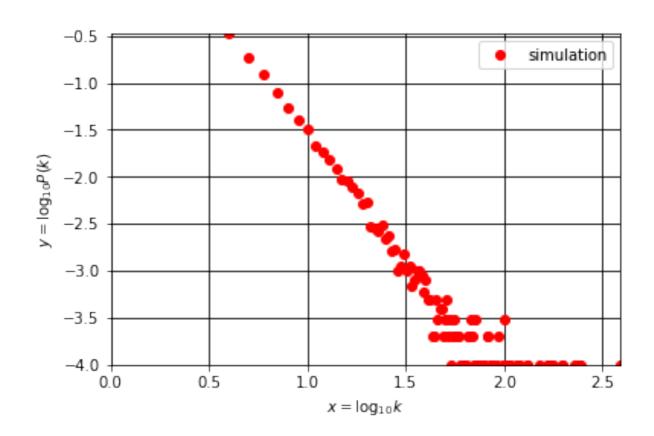
(青: 理論値、赤: シミュレーション結果)



#### シミュレーションプログラムの実行結果について 次数分布のグラフを見てみよう

- ・下の方のcellに、次数分布のシミュレーション結果が出ている. (2つのグラフは目盛りの表示方法が異なるだけ)
- このデータからグラフの傾きを求める方法はあるか?



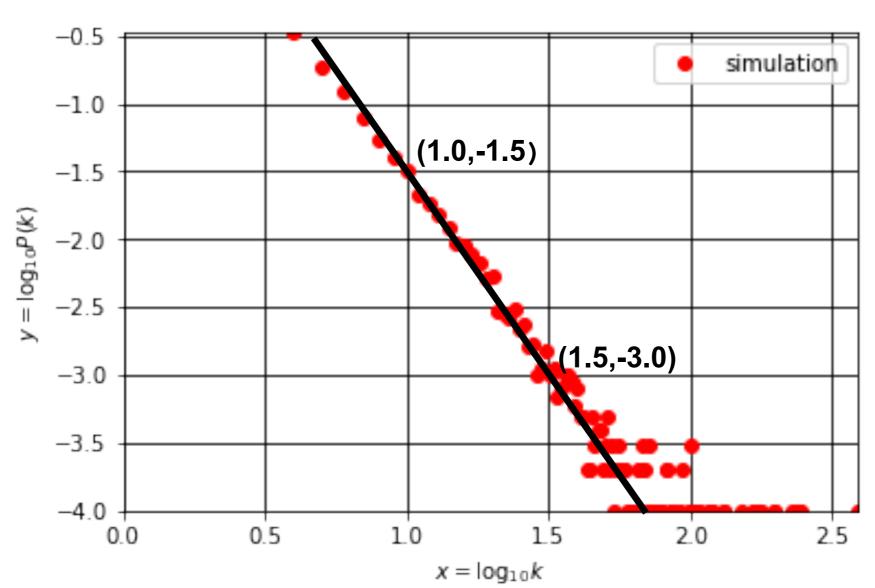


## グラフの傾きを計算しよう

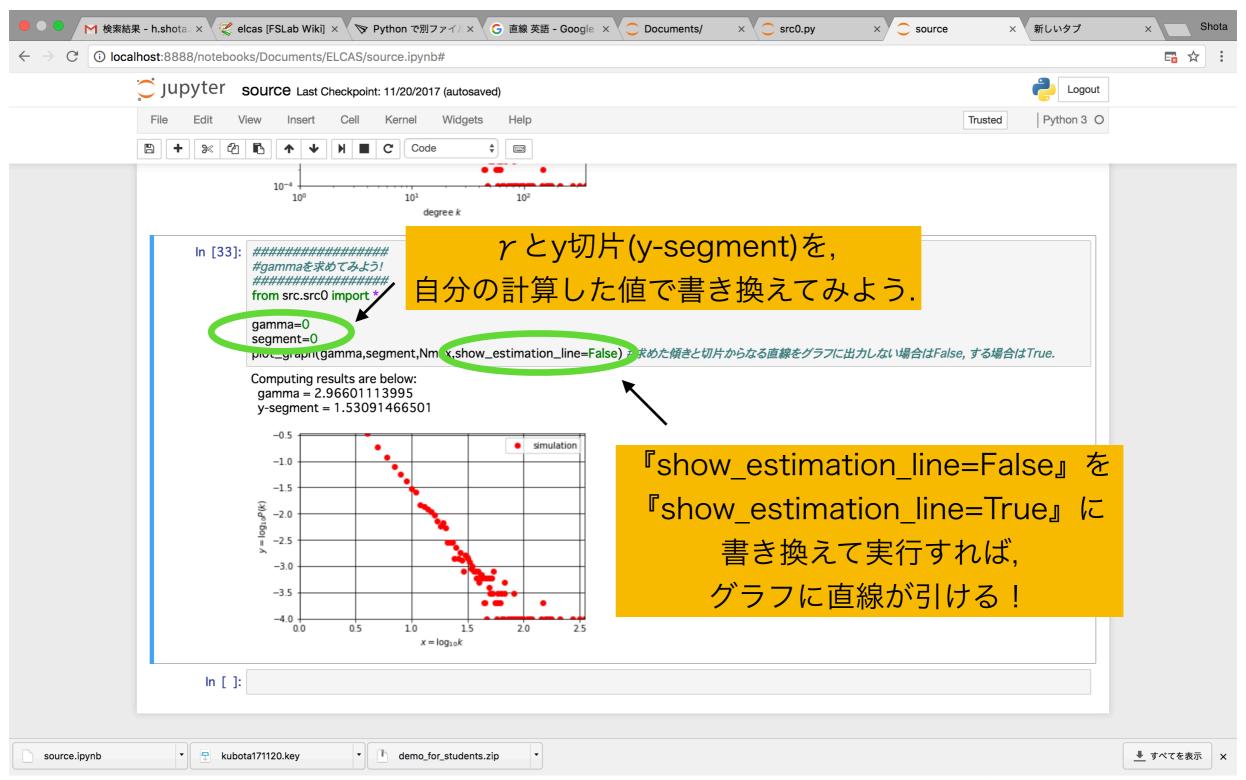
傾き=(yの変化量)/(xの変化量)

$$=(-3.0+1.5)/(1.5-1.0)=-3.0=-\gamma$$

y 切片 = 1.5

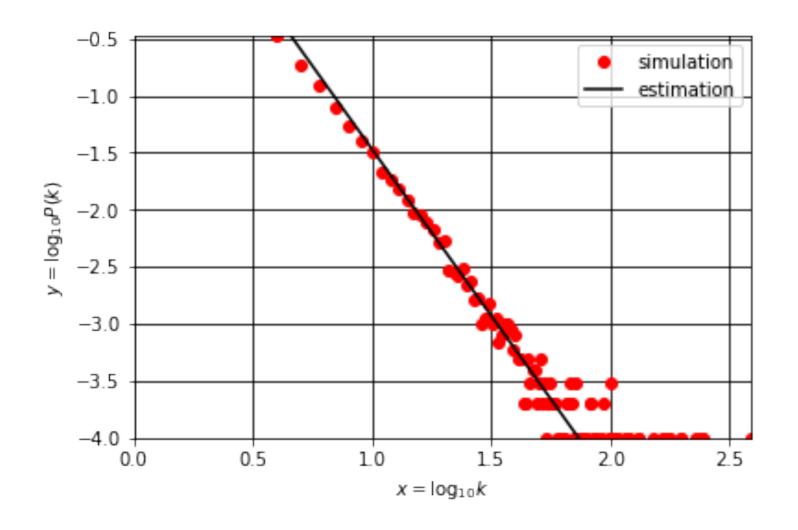


# 求めた傾きと切片がデータに適合するかを見る. (グラフの上に、求めた直線を引いてみる)



# 求めた傾きと切片がデータに適合するかを見る. (グラフの上に、求めた直線を引いてみる)

このように、およそデータ点に一致する直線が引けるはず!

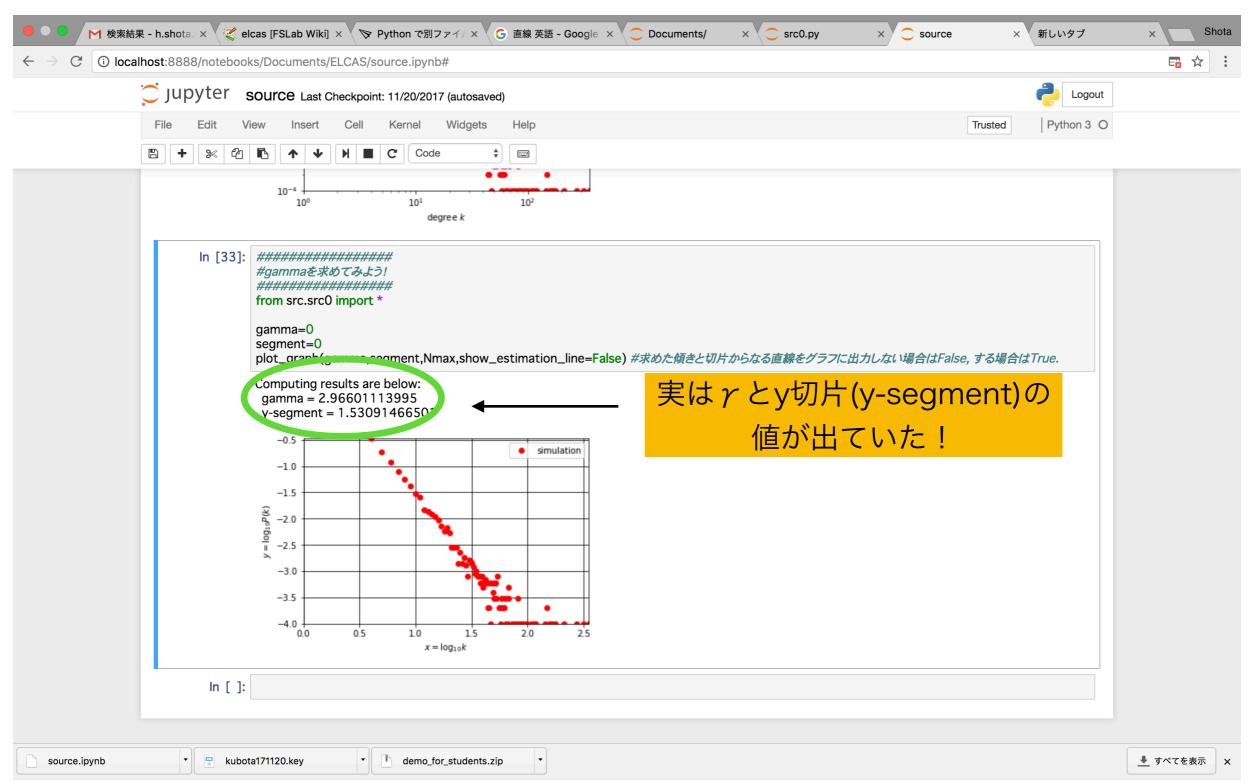


# この傾き計算の方法は 万能ではない

- 目分量なので、人によって直線の引き方は異なる!
- ・次数(degree)kが大きいと、有限サイズ効果が出ている。 簡単には線が引けない!

大学で学ぶ方法を使って 数値計算的に最適な傾きを導ける. その方法で導いた値を見てみよう!

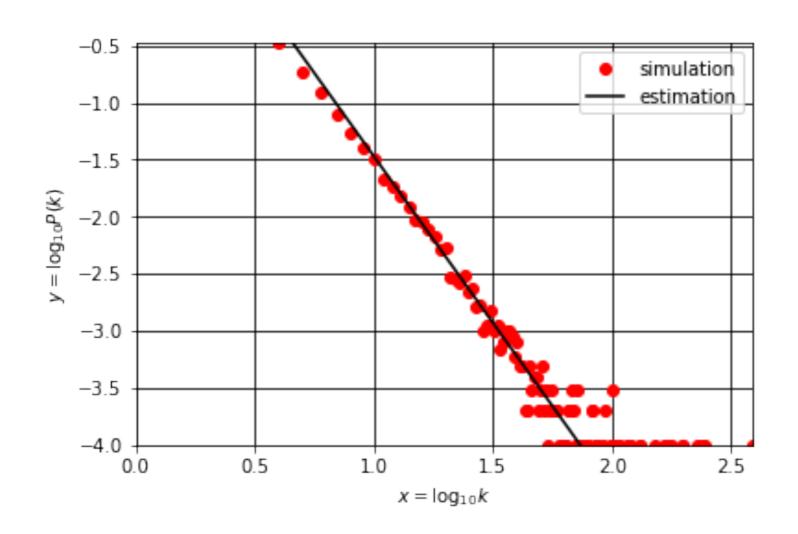
# 数値計算で導いた傾きを見てみよう、 その値でグラフに直線を引こう



上記の値をプログラムに入力し,もう一度実行してみよう. ※実行は「Ctrl+Enter」でできる

# 数値計算で導いた傾きを見てみよう、 その値でグラフに直線を引こう

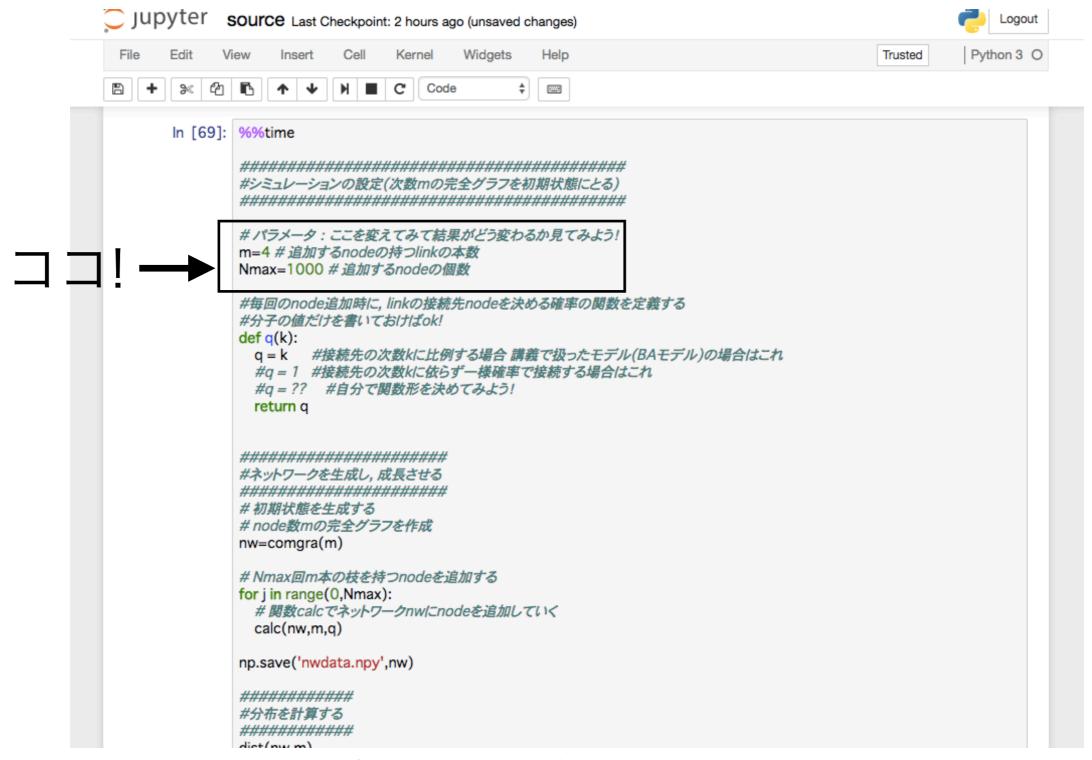
このように、データ点にフィットするような直線が書けるはず.



P(k)がべき分布の場合, 以上のようにして, シミュレーションしたグラフが持つ次数分布P(k)についての解析が可能. ネットワーク描画に関するチュートリアル (別途IPython Notebookファイルを参照)

#### プログラムを変更してみる

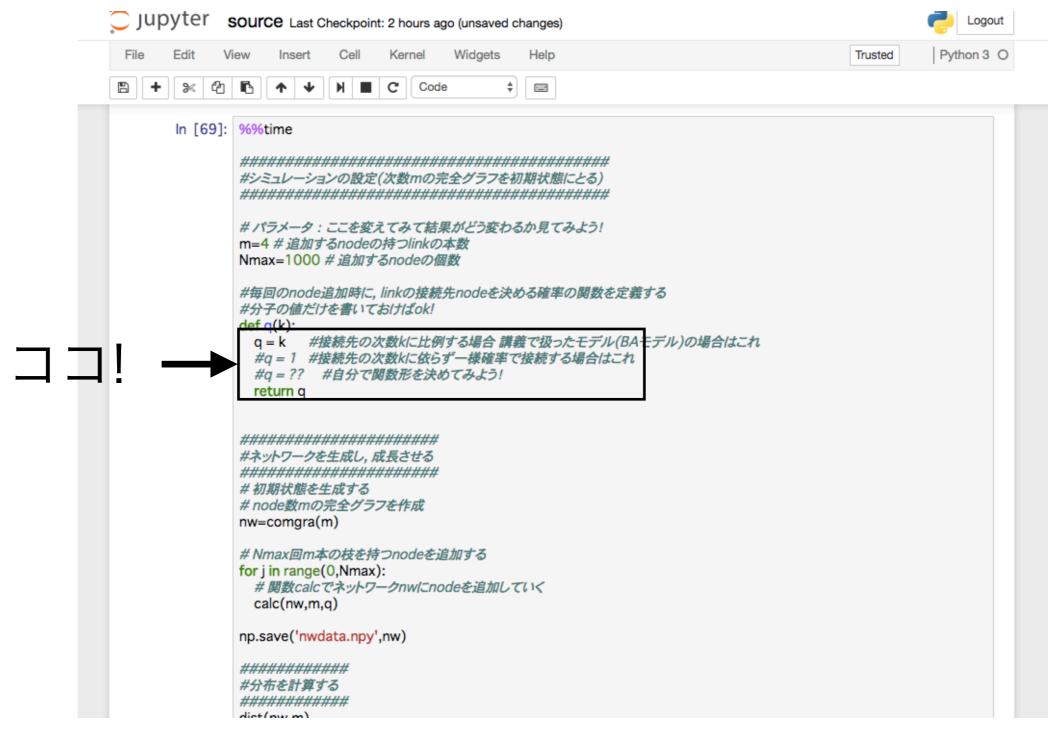
初期設定、パラメタ設定



※Nmaxが大きすぎると時間がかかります

#### 接続確率を変更してみる

接続確率q(k)を変更してみる



※kに依存する部分だけ変えれば良い 例を見て色々変えてみる

#### グラフプロットに関する説明

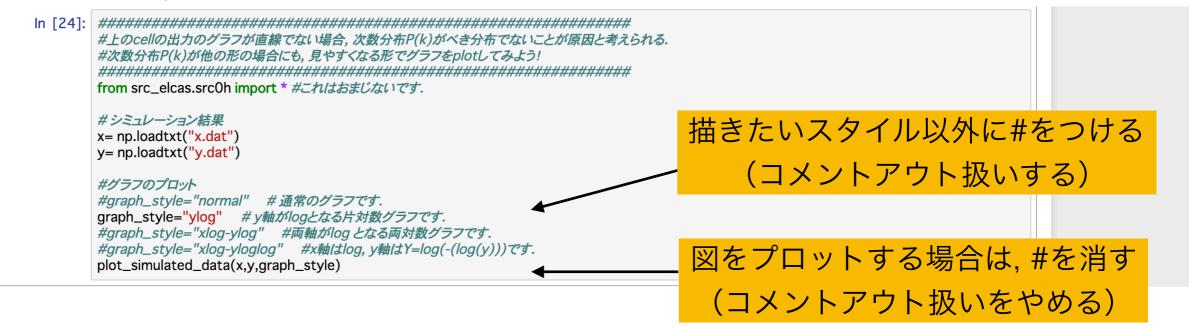
接続確率q(k)を変える時, 次数の頻度分布P(k)のグラフは 両対数グラフ以外が適することもある.

→様々なタイプのグラフを描くプログラムを用意しておきました

```
#上のcellの出力のグラフが直線でない場合、次数分布P(k)がべき分布でないことが原因と考えられる。
#次数分布P(k)が他の形の場合にも,見やすくなる形でグラフをplotしてみよう!
from src_elcas.src0h import * #これはおまじないです.
                                                         下から2番目のcellに
#シミュレーション結果
x= np.loadtxt("x.dat")
y= np.loadtxt("y.dat")
                                                        こんなやつがあるはず.
#グラフのプロット
graph_style="normal" # 通常のグラフです.
#graph_style="ylog" # y軸がlogとなる片対数グラフです.
#graph_style="xlog-ylog" #両軸がlog となる両対数グラフです.
#graph_style="xlog-yloglog" #x軸はlog, y軸はY=log(-(log(y)))です.
#plot_simulated_data(x,y,graph_style)
```



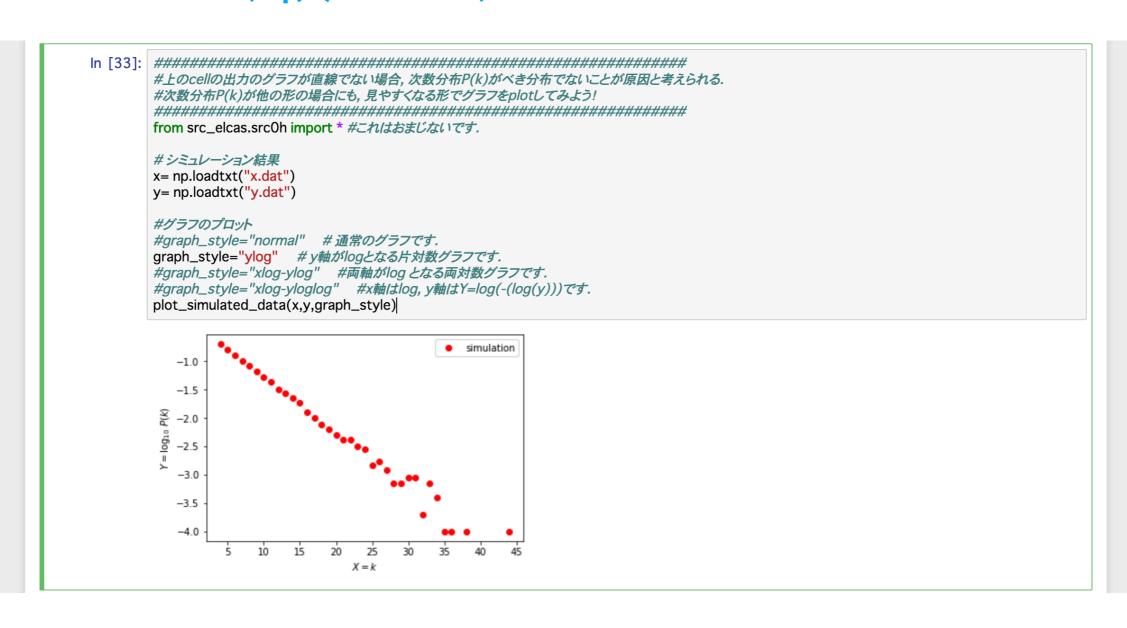
例えば、片対数グラフを描きたい場合は、次のように変えて実行.



#### グラフプロットに関する説明

例えば,接続確率がq(k)=定数の時,次数の頻度分布P(k)のグラフは 片対数グラフが適する.

→N=10000, q(k)=1の時に, このcellの実行結果は次のグラフになる!



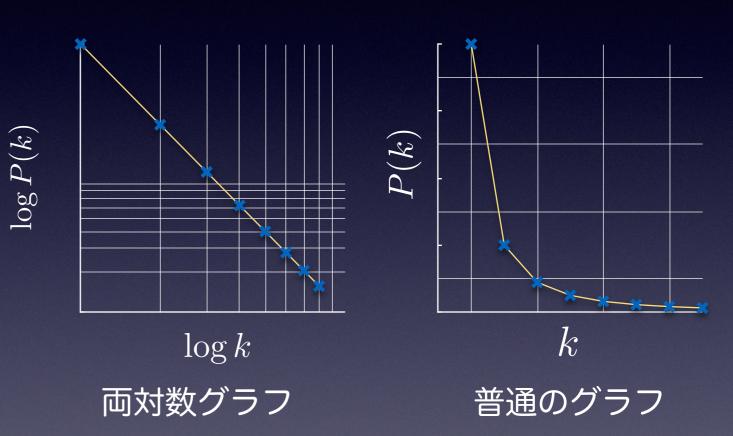
# べき分布について

《 べき分布のグラフは両対数をとった軸で見ると便利

$$P(k) = \frac{A}{k^{\gamma}}$$

$$\log P(k) = \log A - \gamma \log k$$

両対数プロット  $\rightarrow$  直線  $\rightarrow$  べき分布 直線の傾き  $\rightarrow$   $\gamma$ 



べき分布の判定が容易!

このようなべき分布のネットワークをスケールフリーと呼ぶ!

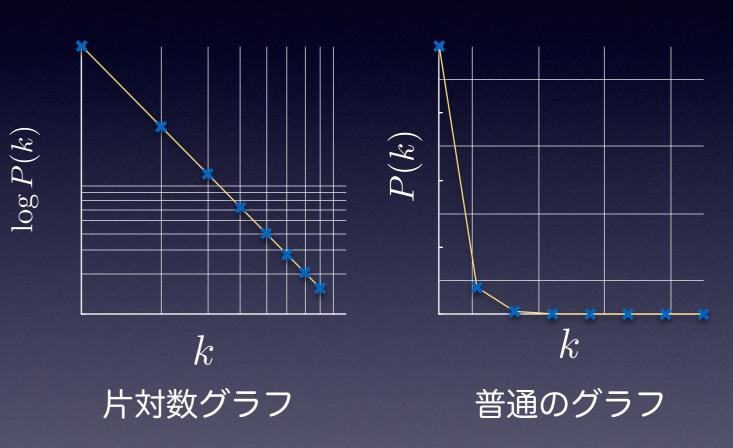
# 指数分布について

⁵指数分布のグラフは片対数をとった軸で見ると便利

$$P(k) = C \times 10^{-\beta k}$$

$$\log_{10} P(k) = \log_{10} C - \beta k$$

片対数プロット  $\rightarrow$  直線  $\rightarrow$  指数分布 直線の傾き  $\rightarrow$   $\beta$ 



指数分布の判定が容易!

このような指数分布のネットワークはスケールフリーでない!